



浜田タイムス

酒田市立浜田小学校

平成30年5月1日

No. 2

校長 渡邊 幸二

授業参観

4月21日(土)は本校第1回目の授業参観に、たくさんの保護者のみなさまからおいでいただき、子どもたちの様子を見ていただきました。お子さま方の学校での様子はいかがだったでしょうか。



今後も、授業や子どもたちの様子をご覧になりたいという方は、どうか遠慮なくいつでもご来校ください。

P T A 総会後に「学校経営説明」をさせていただきました。今、学校がどんな浜田っ子を育てようとしているのかというお話です。

当日は20分以上かけて、しかも早口でお話しましたが、ここでもう一度概略を説明させていただきます。「また!?!」と思われるでしょうが、教育は、学校だけで行われるのではなく、家庭でも、地域などでも行われます。それらの教育が、同じ方向性で行われれば非常に効率的になります。ですから、保護者のみなさまにできる

限り深くわかっていただけるよう、何度も、いろんな角度から、いろんな場でお話をさせていただきたいと思います。



浜田小って、どんな学校？

どの学校にも、その学校なりの教育の特色があります。企業で言うなら「強み」とか「売り」の部分です。浜田小学校の場合、「みんなと共に、みんなのために」という公益、あるいは貢献の心を育成することを中心に据え、学校教育活動を展開していく学校と言えます。酒田まつりに、授業として、学習活動として参加して、子どもたちの、考えたり自ら実践したりする力を育てることなどが具体例です。

まずここに、みなさまから共感していただかなくてはなりませんがいかがでしょうか？

そういう子どもに育てていくために、現在いくつかの課題があります。それらの課題を乗り越えていくための目標が「学校教育目標」です。今年度は「自ら考え、自らの力で生きる子どもを育てる」としました。

では、なぜそんな目標にしたのか…これまでの「心豊かでたくましく生きる子どもの育成」から変えたのはなぜかということをお話します。



AIと未来を生きる子どもたち

2011年、アメリカ・デューク大学の研究者キャシー・デビッドソン氏の語った予測が教育界に大きな波紋を投げかけました。

2011年、アメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今はない職業に就くだろう

確かに、私たち大人が子ども時代にはなかった仕事は今たくさんあります。子どもたちに人気の「ユーチューバー」なる仕事は絶対にありませんでした。さらに、

人間が行う仕事の約半分が機械に奪われる

と衝撃的な予測したのは、英オックスフォード大学でAI(人工知能)などの研究を行うマイケル・A・オズボーン准教授でした。各種報道等でご存知の通り、今ある

これから生きる子どもたちが、今ある答えややり方を受身的に何の疑問もなく覚え、それをいくら効率的に再現・再生できるようになったとしても学力としては全くの片手落ちです。今、大切にされなければならないことは、課題に対して積極的に自らが思考し、最善と思われる解決策が仲間との対話の中で生まれるように育てていくことです。答えは誰かが示してくれるものではなく、自分で創り上げていくものです。

高度成長・効率性
物づくり・大量生産 → 知識基盤社会
情報化 → 先の見えない
未来

いくつかの仕事は、コンピュータがやってしまうことになるということです。実際、現在でもレジなどでセルフ化が進んでおりますし、市役所の入り口には人工知能を持ったロボットが総合案内をしてくれています。

みなさまのお子さんが大人となって生きていく時代は、そういう時代がさらに進んだ世の中

というわけです。どんな世の中なのか、昭和生まれの私には全く想像つきません。

見える力と見えない力のバランス

ですから、学校経営方針にも書きましたように(P T A 総会資料P46)、これから子どもたちの目の前に次々と現れる課題に対して、子どもたちがその答えを、既存の答えの中から機械的に当てはめてだけ答えようとしても、残念ながらおそらく解決しません。もちろん、さまざまな知識・技能がなければ考えることすらできませんので、そういう点数として表せる、いわゆる「見える学力」は今後も絶対に必要です。しかしそれだけでなく、仲間と共に、さまざまな経験知から生み出される新しい考え(思考力・判断力・表現力など)が何といたっても重要になってくるでしょう。これらの学びの中では、社会性や粘り強さなど、点数に表せない非認知能力と言われる「見えない学力」も重要になります。それらをバランスよく身につけていく総合的な学力をつけていかなければなりません。



はまだで学ぶ子ども
生活や地域から学びを創り、それを生活や地域に活かし貢献する子ども

まっすぐな子ども
自分を信じ(自尊感情・自己肯定感)
他人を思いやる(他者意識) まっすぐな心をもった子ども

だくましい子ども
自分の生活を自分でつくる
危機は自ら選べる
自分をコントロールする
自分(の生活)を見つめ、自己管理(自己育成)できるだくましい子ども

教科書、教室に留まらずに

学びを活かす誰かのために(公益・貢献)

だから、こんな浜田っ子に！

子どもたちが、これまで説明したようなバランスの取れた総合的な学力を身につけていくには、教科書だけで、教室だけで、自分だけで学んでいては難しいでしょう。学校で学んだことを、他に発信したり、何らかの形で世の中に活かしていったりする経験を、今のうちから、小学校の学びから

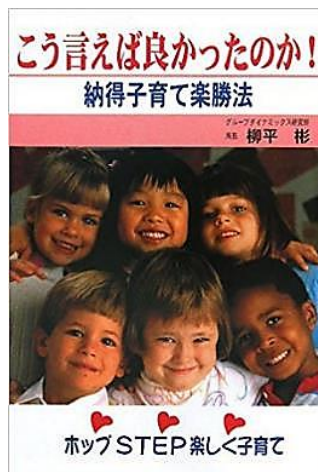
やっていかなければなりません。国語で「かさこじぞう」の勉強をして音読が上手になったら、それを保育園などで披露して園児たちを喜ばせてくるような、そんな貢献活動(公益)が重要になります(はまだで学ぶ子ども)。他者と対話していくためにも他者意識や自己肯定感の向上は必須です(まっすぐな子ども)。他者意識と自己肯定感(自尊感情)を上げていくためには、学校もそうですが、どちらかと言うと家庭での子どもとの適切な接し方が重要になります。どこかの国の王様のようにわがまま

で言いたい放題やりたい放題の子ども・大人に育てるのではなく、自分のことを客観視し、自分をより良く成長させたり、不足の部分を補ったりできるような、そんな自己管理・自己育成できる子どもに育てていくのも学校・家庭両者の協力が重要です（たくましい子ども）。

では、どうすればそんな子どもに育つのでしょうか？

その答えは……ありません。と言うか、たくさんあるし、どれが正解という答えではないでしょう。私たち教師も、**アクティブ・ラーニング**やら**探究型学習**やらとせつつかれています。その学びがどういうものか、実は明確な答えは持っていません。まさに、学びながらそういう授業を創っていつています。

総会でもご紹介したような本などで、子どもたちとの適切な接し方、育て方を学び、**親も子も、教師も共に成長していく**ことこそ大切になってきます。これからもそういう情報を、この学校だよりでくり返しいろんな方向から述べさせていただきたいと思います。どうかご愛読くださいますようお願い申し上げます。



上記の図書は市立図書館にあるものもあります。アドラー心理学関係の子育ての図書は、他にもたくさん出版されていますので、本屋さんや図書館でいろいろとご覧ください。

メディアコントロールに関するおススメの本

～「やってはいけない脳の習慣」他～

以前、「脳トレ」などで著名な東北大の川島隆太先生のご講演を何度かお聞きしました。右掲の本もそうですが、非常にショックを受けました。この学校だよりやPTAの会議の場などでお話させていただきたいと思います。

